

多摩大学では以下(1)～(2)に掲げる目標を達成するため、下記に示す人材の育成を目標としたプログラムを設置する。  
 (1)「文系・理系の枠を超えた知識・教養」「数理・データサイエンス・AIに関する専門知識」を身につけた学生を輩出し、多摩大学の教育目標である、「多摩グローバル人材の育成」を達成する一助とする。  
 (2)「数理・データサイエンス・AI教育」への取り組み、学部間交流、及び教育のDX化をさらに推進する。

<多摩大学 数理・データサイエンス・AI教育基礎プログラム>

「数理・データサイエンス・AI」に関する専門的な基礎知識を有する「多摩グローバル人材」

<多摩大学経営情報学部 数理・データサイエンス・AI教育応用プログラム>

「数理・データサイエンス・AI」に関する専門的な知識を、経営情報学分野においてより応用的に活用できる「多摩グローバル人材」

認定科目一覧

※認定科目は、学部ごとに要件を設置(ただし、他学部履修可)

・数理・データサイエンス・AI教育基礎プログラム  
 アウトプット目標：履修者150名、アウトカム目標：修了者100名  
 IT技術やデータ活用における基本知識を身につけることを目標とし、学部に応じた以下2科目の単位修得を認定条件とする。

| 科目名称           | 対象学部    | 区分   | 単位 |
|----------------|---------|------|----|
| AIの活用基礎        | 経営情報学部  | 必修科目 | 2  |
| ICTコミュニケーション入門 |         | 必修科目 | 2  |
| AI・ゲーム・デジタル産業  | グローバルスタ | 必須科目 | 4  |
| 調査法入門：量的       | ディーズ学部  | 必修科目 | 4  |

・数理・データサイエンス・AI教育応用プログラム  
 アウトプット目標：履修者60名、アウトカム目標：修了者30名

デジタル社会で通用する課題解決能力を身につけるためのより専門的な知識修得を目標とし、以下にある6つの必修科目と1つの選択科目から構成される。※経営情報学部のみ設置

| 科目名称                      | 区分        | 単位 |
|---------------------------|-----------|----|
| AIの活用基礎                   | 必修科目      | 2  |
| マーケティング・データ分析             | 必修科目      | 2  |
| マーケティング・データ分析実践           | 必修科目      | 2  |
| IT活用法                     | 必修科目      | 2  |
| 先端情報技術概論                  | 必修科目      | 2  |
| データベース I (Access)         | 必修科目      | 2  |
| データサイエンス I (データ利活用の基礎スキル) | 選択科目 (推奨) | 2  |

学生への支援

広報資料

能力UP! 始動!!

\*Approved Program for Mathematics, Data science and AI Smart Higher Education

MDASHってなに?

※2024年度以降入学生対象

文部科学省が定める制度で、一定の科目の単位を修得することで、数理・データサイエンス・AIに関する基本的な能力を認定するものです。認定を受けられるレベルは「リテラシーレベル」と「応用基礎レベル」の2種類です。今後、データやデジタル技術の活用は、ますます社会に必要とされるスキルとなります。多摩大学在学中に是非、認定を受けましょう!

リテラシーレベル

IT技術やデータ活用における基本的な知識を身につけることができる。

リテラシーレベル対応科目

※①・②は全て必須科目、【 】内は教員名です。

①AIの活用基礎【久保田 貴文】

②ICTコミュニケーション入門【小林 英夫・小西 英行・増田 浩二】

応用基礎レベル

デジタル社会で通用する課題解決能力を身につけるためのより専門的な知識を修得することができる。

応用基礎レベル対応科目

※①～⑥は必須科目、【 】内は教員名です。

①AIの活用基礎【久保田 貴文】

②マーケティング・データ分析【田中 友理】

③マーケティング・データ分析実践【田中 友理】

④IT活用法【出原 至道・彩藤 ひろみ】

⑤先端情報技術概論【菅沼 睦】

⑥データベース I (Access)【後藤 涼子】

⑦データサイエンス I (データ利活用の基礎スキル)【久保田 貴文】

《相談先》 久保田 貴文 教務課(平日8:50～17:00)

MDASHに関わる認定科目の受講を推奨する旨の広報資料を学内に掲示。併せて、「AIの活用基礎」の授業内において紹介。

※「広報資料」で学生に広く周知させ、「カリキュラムモデル」でMDASHに関連した履修の進め方を提示

カリキュラムモデル

MDASHに係る認定科目の詳細について項目を追記。

評価及び改善に伴う体制

○プログラムの自己点検・評価を行う組織体

多摩大学教育・研究推進センター運営委員会

【役割】

- ◎VOICE等による学生アンケート結果を元に、MDASHの認定科目における授業評価結果について点検・評価を行い、教務委員会へ報告する。
- ◎認定科目の担当教員へ自己評価とVOICEに基づく次年度以降の改善提案を依頼し、別途報告書として取りまとめた上で、内容を点検・評価する。

○プログラムの準備・プログラムを改善及び進化させるための組織体

教務委員会

【役割】

- ◎学内広報活動を通じてMDASHに関わる科目の履修を促進させる。
- ◎プログラムの整備にあたり、数理・データサイエンスの体系的な学修を強化するためのシラバス作成とカリキュラム編成を計画的に実施する。
- ◎対象科目の履修者数や認定証の発行数等について計画目標を策定。每期、結果数値に基づく分析を行った上で改善策を協議する。

○プログラムを改善・進化させるための組織体

多摩大学教学マネジメント会議

①プログラム計画・運営

②点検・評価

③改善・進化に伴う施策を取纏めの上、上程

④審議結果をフィードバック

※プログラムの運営に当たっては、①～④の順でPDCAを確立